

体育科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ○走る・跳ぶ・投げる等、基礎的な動きを身に付けてきています。 ○運動経験の少ない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かけっこで真っすぐ走ったり、いろいろな方向に走ったりすることができます。 ○走る、転がる、支える、バランスをとるなど、基礎的な動きを身に付けてきています。 ○用具の安全な準備や片付けを、友達と協力して行う児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育での活動全般において個人差があります。 ○きまりやルールを守り、友達と楽しく運動することができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動経験の差から動きに幅の違いが見られます。体づくり運動の中に体の動かし方を教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、技が上達しています。 ○学習したことを生かして、継続的に生活の中で実践していくことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボール運動や陸上運動では特に個人差が大きいのが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特に器械運動や陸上運動では個人差が大きいのが課題です。 ○ボール運動では状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技能を身に付けてゲームに取り組むことができます。
思考力, 判断力, 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の動きを見て、良いところを見付けたり、まねしたりしている姿が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよい動きを取り入れたり、自分で工夫したりすることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返りを生かし、一人一人がめあてをもって運動に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返りをいかして、一人一人がめあてをもって運動に取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームや個人で必要な練習を考えたり、自分のチームの特徴をつかみ、適切な作戦を立てたりすることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動のコツを見付けたり、自分の課題に合った練習方法を選んだりして学習を進めることのできる児童がいます。
学びに向かう力, 人間性	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の好きな児童が多く、体育の学習を楽しみにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、進んで学習に取り組んでいます。 ○意欲的に活動し、友達同士で教え合おうとする姿勢が身に付いています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に対する意欲は高く、楽しんで運動しています。 ○用具や器具の準備・片付けにおいて、進んで取り組んでいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、楽しんで運動しています。 ○グループの友達に励ましの声を掛けたり、アドバイスをしたりして、協力して運動しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多いです。 ○安全に気を付けながら走り幅跳びやソフトバレーボールの道具を準備し、協力して運動に取り組むことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に意欲的に取り組む実態に個人差が多くみられます。 ○安全に気を付けて運動に取り組むことができます。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○様々な学習を通して、運動経験を増やしていくことができるようにします。	○活動の基本となる規律を整える必要があります。 ○運動経験に個人差があり、活動への意欲に差が出てしまうことがあります。	○運動の経験の不足を補う感覚作りが課題です。 ○動きや技のポイントを理解し、繰り返し練習することによって、身に付けられる技能に差がありました。 ○学習したことを生かして、継続的に生活の中で実践していくことが課題です。	○跳び箱運動やマット運動の活動に苦手意識をもっている児童が多くいます。	○ボール運動において個人的なボール操作の技術に差があり、技術ポイントをイメージすることができたり、理解して、問題解決を図ったりしていく必要があります。	○個人差が大きく、苦手とする児童が多い運動領域があります。
改善策	○走る・跳ぶ・投げる・転がる・のぼる・おろる・バランスをとる等、様々な基礎的な動きを多く経験できるような学習を設定します。 ○スモールステップを踏み、できるようになる楽しさを多く味わうことができますようにします。	○夢中になって運動に取り組める場面を設定し、その中で様々な動きを経験できるようにします。 ○よい動きを共有する時間を効果的に取り入れ、やってみたい・まねしたいという気持ちを高め、よい動きを広めていきます。 ○運動経験が不足している児童には、タブレットで録画を見合うことで、経験の差に配慮した授業を行います。	○今後も楽しんで体を動かすことができるように、指導していきます。 ○運動感覚を養う補助運動を授業の初めに取り入れ、主運動につなげていきます。	○スモールステップで学んだり、教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、技の上達を図っていきます。 ○運動感覚を養う補助運動を授業の始めに取り入れ、主運動につなげていきます。	○ポイントを視覚的に理解しやすいように工夫したり、スモールステップの段階を踏んで指導したりしていきます。 ○児童と共に、ルールを工夫し、実態に応じたゲームにすることで、楽しく運動できるようにします。 ○作戦の例を示したり、作戦を話し合う時間を確保したりすることで、一人一人が課題をもって、ゲームに取り組めるようにします。	○個々の能力に応じて、適切なめあてを設定できるように、基準となる目標や動き、運動のポイント、スモールステップの段階を示していきます。 ○技能を高められるように、主運動につながる様々な運動や基礎感覚作りを取り入れ、スモールステップで学べる運動の場を用意したりします。
検証方法	○体育の授業の際に、行動観察して確認します。 ○学習カードをもとに、児童の学びを振り返り、確認します。	○体育の授業の際に、グループ活動における声掛けやその反応等の行動を観察して確認します。 ○学習カードをもとに、児童の学びを振り返り、確認します。	○体育の授業の際に、行動観察して確認します。	○学習カードのふりかえりをもとに、技が上達したか、上達した実感があるか確認します。	○授業前と授業後に学習カードを書く時間を確保し、めあてを意識したり、教師や友達のアドバイスを聞いたりしながら取り組んでいたかを確認します。	○めあてや選んだ練習方法を書いた体育ノート、観察をもとに確認します。 ○単元の始めと終わりの技能の高まりを体育ノートや観察で確認します。